

## 第3回目黒区みどりの基本計画懇話会 会議録

日 時	平成 27 年 9 月 30 日 (水) 午後 6 時 30 分から
出席者	<p>(委員)</p> <p>甲斐 徹郎 (関東学院大学客員教授)</p> <p>金子 忠一 (東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授)</p> <p>澤田 みどり (恵泉女学園大学人間社会学部社会園芸学科准教授)</p> <p>岡田 音次郎 (目黒区農業振興運営協議会会長)</p> <p>熊澤 祐子 (碑文谷公園くらぶ代表)</p> <p>佐藤 留美 (NPObirth 事務局長)</p> <p>市田 淳子 (公募区民)</p> <p>豊田 恭子 (公募区民)</p> <p>宮尾 三郎 (公募区民)</p> <p>(オブザーバー)</p> <p>一言 太郎 (国土交通省都市局 まちづくり推進課)</p> <p>(事務局)</p> <p>目黒区</p>
場 所	目黒区総合庁舎本館 地下 1 階第 13・14 会議室
議 事	<p><b>1 開会</b></p> <p>(1) 傍聴について</p> <p>(2) 委員の出欠について</p> <p>(3) 配布資料の確認</p> <p><b>2 議事</b></p> <p>(1) 会議録の確認</p> <p>事務局より第 2 回懇話会の会議録の内容について確認が行われた。修正事項は後日、各委員より事務局に連絡することとなった。</p> <p>(2) 目黒区みどりの基本計画の基本理念と施策について</p> <p>(3) 目黒区みどりの基本計画 (改定素案たたき台) について</p> <p>事務局より資料 2 から資料 7 まで続けて説明が行われた。</p> <p>座長 項目を区切って意見をいただきたい。資料 3 について意見はあるか。</p> <p>委員 「質の高いみどり」という表現は一般には伝わりにくいと感ずる。人によって受け取り方は異なるので注釈など説明があったほうがよいのではないか。</p> <p>事務局 例えば「見て心地よい」「歩いていて、みどりが連なっていてきれいだ</p>

	<p>と感じられる」といった、量だけではなく質の部分を探めていくことを考えている。基本計画の中では、P.45 に写真を掲載している。言葉で伝わりづらな部分は写真で表現していきなと考えている。委員の皆さまがよなと感じる写真があれば、ご提示いただき掲載を検討していきな。</p>
副座長	<p>写真だけでは伝わりづらなのではないな。質ということであれば、生物多様性地域戦略にもあるように、目黒区は生きものが多様に住まなまちなので、園芸やガーデニングであったとしてもバタフライガーデン的な要素を持つなど、プラスアルファの要素が今後にも必要になていくのではないな。これからの時代は公園ごとに管理の仕方などを多様な区民の利用に合わせていけるとよな。質の高なということ考えると、ある程度の評価軸に沿って使い分けられると思う。評価の仕方については後ほど改めて質問をしたい。</p>
座長	<p>最後まで目を通せば理解できることだと思なが、伝わりやすさを考えると、表現の工夫はできると思な。</p>
委員	<p>これまでも「質の高なみどり」という表現は使ってきたな。</p>
事務局	<p>これまでも使っている表現である。</p>
副座長	<p>生物多様性だけでなく、健康づくり、芸術的な要素など色々な意味が入ってくる。生活の質を高めるというニュアンスが伝わるとよな。</p>
委員	<p>質のこと言なと、都市の暮らしは個人の領域で生活が完結してあり、その集合がまちとなている。そこでは各々が孤立しててコミュニティがつながってない。みどりの価値をしっかりと位置づけられると、個人個人がみどりを共有し合な、境界をまたいで関係性を誘発させることができ、それこそがみどりの最大の価値だと考えている。関係性を最大化することができるみどりを「質が高な」と捉えると、関係性を大きくしようという連鎖反応が起きる。みどりは関係性をいかに高めるかが価値であり、その際に、3つの視点があると思えている。1つ目は「景観」であり、お互いみどりの見て捉えることで関係性が生まれる。2つ目は「気候」であり、ボリュームのあるみどりは「微気候」と呼んでいる局所的な気候の変化を生み出し、関係性という視点でみどりの質を評価できる。3つ目は「利用」であり、個人がお互いにみどりを利用し、フットパスなどでみどりがまちの中をつながることで関係ができる。このような視点で「質」ということに意味を持たせていくことは重要だと考えている。</p>
座長	<p>これからのみどりに求められることは量ではないというところから目黒区では「質」という表現を使ってきた。量ではなく質という視点は各委員で共有できていると思なので、具体的な中身をどう計画に表現していかを議論したい。</p>

事務局	今回の計画では、P.32の現状と課題の中でみどりの機能（質）という捉え方をしている。機能を基に、基本理念、基本方針等を定めたいと考えている。基本理念の中でも「みどりの機能（質）が最大限に発揮されるようにみどりを保全・創出していくことが必要」ということを記載している。そして、みどりの質を高めていくためには、区民一人ひとりが“みどりの価値”を認識し、身近な場所でみどりを守り創る活動に参加し、みどりと人、人と人の交流を深めていくという表現をしている。施策の中では、従来は「みどりの質を高める」という仕組みづくりの項目があったが、今回は、先ほどの皆さんのご意見にもあったように、質ということは色々なところに関わっているということで、「魅力あるまちなみ形成」という項目で整理している。
副座長	P.4「みどりの定義と役割」の文章には質という言葉が出てきていないので、つながりが少しわかりにくいと感じる。
事務局	P.4にあるようにみどりの機能をいくつかに分けて捉えている。こういった視点で中身を見ていこうということでみどりの実態調査等により、人々の感性にふれるようなみどりをつくっていけないかということを考え、見直しを図っている。言葉の表現を伝わりやすいよう整理していく。
副座長	P.4にある役割を担うみどりが「質が高いみどり」だと目黒区は考えているということか。
事務局	先ほどのご議論にもあったが、質というと人によって捉え方が異なるということ踏まえ、機能という表現で整理したいと考えている。
委員	機能という表現は、みどりが客観的なものとして捉えられてしまうのではないか。区民が自分に関わるものとして主体的にみどりとつながり、アクションを起こすことを重要だと捉えると、表現は再考してもよいかも。皆が主体的になって、よいと感じることでみどりが増えていく連鎖反応が起こるとよいという視点で「みどりの質」ということが捉えられるとよいと考えている。
座長	区の考えは皆さん理解していると思う。伝わりやすい表現かどうかということを考えていきたい。
委員	「みどりの質」については全体に関わることなので、わかりやすい表現を考えていきたい。
座長	「質の高い」という表現を使うかどうかということも含めて考えていけるとよい。
委員	以前にも発言したが、みどりの価値ということを整理していくと細分化していくが、全体で見てなぜ重要かということをつなげて考えることが重要だと考えている。その際に、個人レベルのみどりが個々の生活の質

	<p>をあげるといことと、まちの中にある公的なみどりがつながっていくことを「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」というように、個々の取組みが全体の中で重要であるということが示せるとよいと思う。自分のためのことからスタートしていけば、必然的に公共的なみどりが重要だと捉えられるようになって考えている。一方で、全体のみどりを俯瞰しようとする、自分たちの生活が感じられるということが重要である。このようにすべてがつながっているという視点で全体の意味合いをこの計画の中で明確にしていけるとよいと考えている。</p>
委員	<p>全体的に見て、みどりは自然のものなので、それに対して「質が高い」「みどりをつくる」という表現は、少し驕りのような印象を受けた。本来みどりは自然からの恩恵であるという姿勢がもう少し見えた方が、「みどりを大切にしよう」という想いにつながるのではないか。表現として、「自分たちがみどりに役割を与えている」という印象を受けたことが少し気になった。</p>
委員	<p>「人間のためにみどりがあるんだ」という印象を受けた部分はあり、少し驕りがあるような感じはある。あと、みどりとの「共生」という表現が「みどりの保全・育成・創出」の中に入っているとよいと思う。自然をあるがままに受け入れるということもみどりにとって「質が高い」ということにつながると思う。</p>
委員	<p>雑草であってもきれいだと感じるものもあるし、人が植えたみどりできれいだと感じないものもある。「質が高い」ということを考えた時に美的に見てきれいかどうかの方が大事で、管理されているから「質が高い」とは違うことだと思う。</p>
委員	<p>個人にとってみどりを身近に感じるということが大事で、それが生活を向上させるというようなみどりの良さを人々に気づかせることにも丁寧に取り組まないといけないと考えている。共生は前提として捉えているが、みどりに対して関心のある人はどんどん進んでいくが、そうでない人がどうみどりにアプローチしていくかも含めて考えていくことが重要だと考えている。「つくる」という表現に再考の余地はあるかもしれないが、みどりに関心がない人も一定数いるので、その点も踏まえて考えていけるとよい。</p>
委員 事務局	<p>みどりが消耗品のような印象を受けることは避けたいと思う。 消耗品と捉えてはいないが、都市のみどりは自然性は高いとは言えず、適切な管理が求められている。区民がみどりにふれる機会を増やすにあたって「つくる」という表現を使っているのは、あくまで主体は区民と考えているからである。区民の皆さまにどう参加してもらうかが一番の課題であり、その点をうまく表現できればよいと考えている。</p>

副座長	<p>先ほどの発言にもあったが、みどりの機能という点と少し客観的な印象があるという点は同意見である。1970年代、ニューヨークでプロジェクト・フォー・パブリックスペースという団体が、公共スペースの価値を人間との関係性の中で捉えて評価しデザインしたという取組みがあった。その団体が作った評価軸は、例えば公園を評価する際に「環境保全」「生物多様性」ではなく、公園に一步踏み入れた時に「雰囲気は心地よいかどうか」「安全そうかそうでないか」といった視点で利用者が主役となっていて、とてもおもしろい。この計画でみどりの役割を考えた時に、どうしたら自分ごとになるかということを考えていけるとよい。生きものにふれる、コミュニケーションの場など、区民のアクションにつながる事が大事で、一昔前であればこのように機能分けをすることが革新的だったと思うが、そこから一步進んで、他の委員の意見にもあるように生活がよくなるということまで考えていけるとよい。</p>
委員	<p>目黒区は人口が集積しており、自然の状態に任せてみどりが再生産されることはほとんどなく、みどりを育成していくためには、人が関わっていく必要があると考えている。その際に、どのようにみどりの担い手を増やしていくかが大事だと思う。</p>
委員	<p>自然のまま放っておくことではなく、感性として、「ベランダのプランターが枯れても放っておく」ということがないような、リテラシーの向上というか、みどりを大切にしたい気持ちを育んでいけるとよいと考えている。</p>
委員	<p>みどりがいきいきした状態だと、丁寧に育てようという気持ちになる。しかし、枯れはじめたり、状態を改善させるという段階になると諦めてしまう人がいると思う。区民の意欲を維持するためには、みどりの育成について気軽に相談できる場や人が近くにいれば、みどりの担い手を育成していけるのではないかと。</p>
委員	<p>育てるといよりは、みどりが暮らしの一部になるということが共生というイメージだと感じている。生活の中で当たり前に関わりを持っていくことがみどりとの共生なのかもしれない。</p>
委員	<p>動物の命は大切にしたいが、植物に対する思いやりは欠如していると感じている。植物を大事にするという感性を育み、子どもにも伝える取組みに力を入れてほしいと感じている。</p>
委員	<p>「目黒区緑化都市宣言」はとてもよいことが書かれている。それが具体化するとこの議論のように難しいことが出てくるのだと思う。園芸療法の分野では「静かな命」という表現を用いるが、独立栄養で生き、声を出さない植物を都市の中で区民がどう守っていくかということを実施の中で表現できれば、この宣言に計画の内容に近づいていくのだと思う。</p>

座長	みどりの基本計画は、これから人々がどう関わっていくかということが重要である。しかし、目黒区緑化都市宣言のように、そもそも人と自然がどういう関係にあるのかということも重要で、そういったことが計画の前段で書き込めるとよいのかもしれない。
委員	人と自然との関わり方を明示できれば、みどりは区民にとってかけがえないものだということが伝わるのではないか。
副座長	この計画の中で「質」という表現を用いるのであれば、P.45の写真是人と自然との関わりを反映したものであるとよいと思う。区民がいて、レクリエーションや健康づくりなどのアクションをしているということが示されていることが重要ではないか。暮らして集うというイメージの写真があるとよい。
座長	資料4について意見はあるか。
副座長	指標はもう少しあるとよいと思う。また、達成状況、評価について方法を示せるとよいのではないか。
座長	施策の進捗状況の指標にはなるが、前回のオブザーバーの意見にもあったが、アウトプットの部分だけでなく、アウトカムの指標として生活の質が高まることが本来の目的なので、そこにつながる視点で提示できるとよい。
副座長	PDCAでいうCの評価の部分をどう示すか考えていきたい。
事務局	施策に掲げたものを評価し、指標にあげたものを実現していきたいと考えている。資料には進捗管理ができない指標もあるので、客観的に評価できる指標を検討していく。
オブザーバー	資料4では、アウトカム指標となっているのは2番目と4番目で、1番目、3番目、5番目は個別施策の指標に過ぎず、基本方針のアウトプットとして見れるものではないと思う。本来的には個別施策ごとに指標があるとよいが、すべては無理だと思う。掲げられた施策の中で重点施策も整理して、特に代表的なものがここに掲げられているのではあればわかるが、時間的な問題か、個別施策の指標がない中で代表的でもないような施策の指標が突然ここに出ていて違和感がある。また、PDCAのCはどうするのかという副座長の意見は同意見で、その中で資料8の最後にPDCAサイクルでの進行管理について書かれていることにも違和感を感じる。施策を整理する中でそれぞれに対してどのような指標を掲げられるのかを考えて、すべてをアウトカムとして書けるかはわからないが、2番目、4番目のようなものをそれぞれの基本方針に対して設定できるかどうかを考えていけるとよい。 また、代案がすぐには浮かばないが「歩いていける公園の誘致面積率」

	<p>は新しく出す指標としてはどうかと感じた。再編の中でなくなる公園もあるかもしれない状況で、この指標が施策の方向性と逆にいく可能性もあるかもしれない。</p>
委員	<p>話は変わるが、区内の公園はすべてみどりと公園課で管理しているのか。</p>
事務局	<p>区立公園はすべてみどりと公園課で管理している。</p>
委員	<p>公園にある看板を見ると土木課と書いているものもある。看板が汚かったり、草がボウボウに生えているところもあるが、どうなっているのか。</p>
事務局	<p>すべてみどりと公園課で管理しており、区民の方のご意見もいただいているが、昔の看板が組織の改変に対応しきれていない。</p>
副座長	<p>区民の意識として、そういうことが気になることだと思う。施策としてどこで対応していくことなのか。</p>
委員	<p>10年ほど前に比べて屋上緑化が進んでいる。屋根の上のみどりがあると上から見た時にきれいだと感じる。</p>
委員	<p>武蔵小杉の商業施設グランツリーの屋上はとてもきれいで親子連れでも行きたくなるような場所である。天空庭園もよいが、区役所屋上の十五庭はそこまでではない。遊具などを設置して行きたくなる環境を整備できるとよいと感じている。</p>
委員	<p>屋上は太陽光パネルを設置するという利用方法もある。屋上の緑化は区民の日常生活で身近に目にふれる場所ではないので、どちらかという温暖化防止、CO<sub>2</sub>の吸収が目的とも捉えることができる。どちらが大事かという議論もしていけないと、緑化に対して十分な説得力を持って施策を進めることはできないのではないのか。</p>
委員	<p>定期的に確認する指標は区として考えているのか。</p>
事務局	<p>具体的にはない。みどりの実態調査を概ね5年ごとに実施することがみどりの条例に位置づけられているが、現状それもできていない。</p>
委員	<p>区民の誰にとっても理解される指標があり、それが評価されている仕組みがあることが重要である。数値化された指標は質とは離れたものであり、人と人、人とみどりの関係性を総合的に評価できる指標があるとよい。みどりのミシュランガイドのような評価が定着すればよいと考えている。</p>
オブザーバー	<p>重点的取組の中に目黒ブランドという表現があり、とても素敵だと思っている。初めて見たときにはみどりそのものをブランド化するのかと思ったが、読み込んでいくと「目黒ブランドのみどりづくり」でよいの</p>

	<p>だと感じた。計画を作りこんでいくにあたり、目黒ブランドのみどりとは何なのかということこれから時間をかけてつくっていくというこ          ことでよいと思う。次回の計画改定時に、他の委員のおっしゃるよう          に指標とすることができればよいと思う。</p>
副座長	<p>区民の声こそ指標とすべきだと考えている。どう変わっていくのか、          どう変わったのかということが大事で、そこを仕組みとして評価できる          指標になるとよいと思う。</p>
座長	<p>資料 5、資料 6 について意見はあるか。</p>
副座長	<p>施策 1-2-4「事業者等との連携促進」は新規施策であり、今後目黒区に          にとって大事なことだと思うが、身近なみどりを育てようというところ          で、もっと取組み内容を考えられるとよい。イベントや講座などの活動          を促進するスポンサーイベントがもっとできると思う。また、苦情要          望などなかなか区として手が回らないところを事業者連携で施設改修          などに取り組むこともできるのではないか。実際江東区の亀戸でディベ          ロッパーが公園を改修した例もある。もっと広く捉えていけるとよい。          事務局</p>
事務局	<p>現在目黒区では東急電鉄と広場や公衆トイレの整備に取り組んでいる。          事業者連携については、さらに促進していけるとよいと考えている。</p>
委員	<p>1-1「区民のみどりづくりの意識の醸成」について、意識づくりはとて          も大事なことだと思うが、区民の生活が向上するという内容の取組みが          もう少しあってもよいと思う。</p>
事務局	<p>人づくりという意見もあったが、みどりのことを学ぶ環境を整えるとと          もに PR をしていきたいと考えている。          例えば 1-1-3「みどりの大切さの普及・啓発」の 3 点目にある生物多様          性一人ひとりのチェックリストの活用など、生物多様性地域戦略の中にも          あるが、ライフスタイルの中にみどりを取り入れることに意識を向け          てもらうことを考えている。</p>
委員	<p>目黒ブランドのみどりづくりを目指す時に、みどりや園芸は日本の生活          の文化を支えてきたものであり、暮らしの中でプライドを持って接して          きたということを伝えていくことが重要だと考えている。環境保全とい          う観点でも、自分たちの暮らしがよくなるんだということが根本にある          という意識を啓発していけるとよい。造園業者の事業にしても、仕様書          に沿って何本木を植えるかが重要なのではなくて、暮らしがよくなるこ          とが重要だということを行政から発信していけるとよいと考えている。</p>
委員	<p>今の時期はキンモクセイの香りがして心地がよいが、植木屋さんに仕事</p>



	<p>を頼むとしても決して安い金額ではないため、維持できず切ってしまうということもある。</p>
委員	<p>公園でも花が咲く寸前に、「仕様書にあるから」という理由で木を切ってしまうことがある。木の剪定等についても意識づくりができるとうよい。</p>
座長	<p>今後パブリックコメントの機会もあるので、意見があれば改めて事務局に伝えてほしい。</p>
副座長	<p>2-2-5「公園活用提案制度の検討」について、パークマネジメントプランの作成は賛成だが、施策として別だししてはどうか。制度自体の検討ももちろん賛成している。</p>
オブザーバー	<p>2-2-5「公園活用提案制度の検討」は素晴らしいことだと考えている。さらに、4-2-1「民有地の緑化の推進」の中に書かれている表彰制度と連動して、おもしろい提案を褒めるところまでできれば、区民も前向きに関わりやすいと思う。また、質の高いみどりの最大限の実現に向けて、許可の部分で行政がどこまでできるかが書かれているとうよい。全体を通しては、緑化関係の取組みが少ないという印象がある。緑量を増やすという関係で、3-1-4「生物多様性保全林の指定」もあるが、個人の庭に木を植えることも同様に大切なことだと思う。先ほど説明のあったチェックリストにあるのかもしれないが、細かいみどりを増やしていくことが「拡充」に位置づけられた施策にはあまり見られない。緑化の施策としては、ブランドづくりや人とみどりの関係づくりのところにあると思うので、「拡充」の施策からもう少しみどりを増やす取組みが出てくるとよい。</p>
委員	<p>最近庭がない家が多くなっているが、例えば玄関先でもみどりを置くだけでもみどりのあるまちなみはできると思う。小さいみどりでも重要だということが伝わるとよい。</p>
事務局	<p>民有地のみどりについては現在取り組んでいる施策を継続していきたいと考えている。委員の意見のように、庭のない家が増えているが、目黒区ではベランダの緑化にも助成している。引き続きできることを探して取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>「拡充」の施策や玄関先の緑化について、実現するためにはみどりの担い手に対してどうインセンティブを与えていくかが大事だと感じている。そのためには、単に鑑賞するだけではなくて、みどりを育てて感動するという体験が重要だと考えている。</p> <p>また、行政と協働するためには、区民が行政の掲げる目標に関わっているという意識を持つことが重要だと思う。そのために区は様々な機会でも目標を発信し、区民と目標を共有していく必要がある。先行的な事例に</p>

	<p>については行政が積極的に支援するなど、一緒に取り組んでいることをど          んどん区民に発信していけるとよい。</p>
座長	資料 7 について意見はあるか。
委員	目黒ブランド、めぐろの森など、表現が漢字と平仮名で混在しているが、 使い分けはあるのか。みどりはすべて平仮名なのであれば、めぐろもす べて平仮名で統一してもよいのではないか。
事務局	「みどり」については、水や土や環境などすべて含んだ概念として平仮 名表記としている。「めぐろ」については、表現の使い分けの基準を検 討する。
委員	めぐろも平仮名だと優しい印象を持たれると思う。
オブザーバー	施策の見直し区分が「継続」であって、重点的取組の中で「推進施策」 に位置づけられているものがあるが、どう整理しているのか。
事務局	重点的取組（案）についてはまだ位置付けが十分に整理できていない。5つ の基本方針を進める中で 3 つの重点的取組を掲げ、施策を位置づけ ていきたいと考えている。先ほど各個別施策に指標を設けるとい う意見もあったが、「拡充」「新規」という位置付けは取組みを強化してい くという意味合いもあるので、重点的取組としてどのように整理する かも合わせて事務局で考えていきたい。
副座長	資料 8 の P.79 の 3 「重点的取組（案）」については、資料 7 を確認すれ ばよいのか。
事務局	資料 7 を確認いただきたい。
副座長	重点的取組について、イメージのわかる図があるとよい。また、全体を 通して、目標や施策についても写真やイラストがあると読みやすくなる と思う。先ほどの意見の「暮らしとのつながり」などは、字だけでは伝 わりにくいと感じている。
委員	資料 7 の「目黒ブランドのみどりづくり」のリード文について、暮らし ということがテーマであれば、「住みたいと思うまちとして選ばれるこ とを目指し」という文章が最初にあってもよいのではないか。また、 「おしゃれなまちなみ」という表現は少し曖昧に感じる。施策にもある が「魅力あるみどりのまちなみ」という表現の方が伝わりやすいのでは ないか。
副座長	目黒区イメージとして「おしゃれ」「ブランド」という表現を使いたい 気持ちもわかる。抽象的ではあるが、目黒区のイメージに近くもあるの で、うまく使えるとよいと思う。

委員	区民のみどりを活かした暮らしのあり方そのものがブランドという視点である。目黒区に住む人のライフスタイルに憧れて、区外の人が目黒区に訪れ、住みたくするという流れで説明できるとよい。「区民の生活の様がブランドである」くらいのことを書けると伝わりやすいのではないか。
委員	目黒ブランドというものはこれから作っていくものなのか。
委員	区民の生活の様がブランドであり、誰かが作ってくれるものではなく、区民もお客さんではなく主体的に関わってほしいということが伝わるとよい。
委員	「おしゃれ」「ブランド」という表現を見て、目黒区の中でも自由が丘と中目黒のことを言っているのではないかと感じた。そこは目黒の中でも特異な場所であり、目黒で生まれ育った目線で全体を見ると下町的なものがブランドだと感じている。「おしゃれ」については、全体を表現することとしては若干違和感がある。
委員	資料 8 の P.4 にあるみどりの定義を明確にする必要があるのではないか。それが指標の明確化にもつながることだと思う。みどりの定義から指標までの流れをもう少し整理して、「感性」「おしゃれ」「ブランド」という表現を使えるとよい。
副座長	区民の目黒に対するイメージと区外の人々のイメージには差はあるのだと感じた。目黒に対して「行ってみたい」「住んでみたい」という気持ちを起こさせるような施策を入れたい一方で、今住んでいる方の暮らしがさらによくなるということも考えていく必要もあると感じている。うまく両方を満たす計画となるとよいと感じている。
座長	基本的な枠組みは、懇話会の意見としてはこれでよいということとしたい。意見はあるか。
オブザーバー	最初にいただいた資料を比較すると、「暮らす」以外の「感じる」「集う」部分のトーンが落ちている印象がある。最初にいただいたものと見比べたからということもあるかもしれないが、「目黒ブランドのみどりづくり」だけ浮いている印象がある。例えば「目黒ブランド」をひとつ掲げてその下に「暮らす」の部分を「おしゃれなまち」と「目黒に暮らすひとたち」というふうに分けて位置づけてもよいかもしれない。
座長	残りの部分は事務局で修正等の対応をしていただくこととしたい。
事務局	全体の内容としては、今日出した資料が最新のものということでご理解いただきたい。計画の構成としては、第 1 章 計画の基本的事項、第 2 章 目黒区のみどりの現状と課題、第 3 章 基本理念と目標、第 4 章 施策の方向性、第 5 章 計画の推進体制及び進行管理としたいと考えている。ご意見をいただいた P.4 など今回の計画の要点となることや、平仮名の「みどり」という表現を用いることなどを前段に置いて区の考

	<p>え方を示していきたいと考えている。また、この計画を推進するにあたっては、区民が主役になってみんなでこの計画の実現を目指していく中で、それぞれの役割を P.5 で示していきたいと考えている。</p>
座長	<p>計画そのものの位置づけはどうか。今回の意見を踏まえて修正した後にパブリックコメントを実施すると思うが、その前に委員には修正した計画を送付するのか。</p>
事務局	<p>今回の意見を踏まえて修正した後に、パブリックコメント実施に合わせて修正した資料を送付する。</p> <p>今後のスケジュールとして、時間が短く大変恐縮だが、10月7日までに意見をいただきたい。その後、資料を修正し素案を作成し、12月5日からパブリックコメントを実施したい。</p>
座長	<p>素案ができたなら委員の皆さまの元に届くと思うが、パブリックコメントの時点で絵や写真は入るのか。</p>
事務局	<p>区民の方にわかりやすく伝わるように、写真やイラストは入れていきたいが、素案の時点で出せるかは検討させていただきたい。</p> <p>できるだけ伝わりやすい資料としてパブリックコメントに臨みたいと考えている。例えば P.47 にはラフスケッチを載せており、今後清書する予定であり、P.45 の写真も改めて整理したいと考えている。</p>
座長	<p>この会は懇話会という位置づけであり、パブリックコメントの実施にあたっては事務局からの案となるため、委員の皆さまは改めてご意見を送っていただくことも可能である。</p>
委員	<p>12月5日からパブリックコメントを実施するのか。</p>
事務局	<p>改めてスケジュールを説明する。今回の懇話会を経て、今後東京都との協議を行うのに1か月ほどかかる予定である。11月に入って庁内の委員会に諮り、それがまた1か月ほどかかる予定である。その後資料を修正し、パブリックコメントで区民の皆さまから意見をいただく予定となっている。その後、パブリックコメントを受けて1月に計画案としてまとめて3月に最終決定する予定である。委員の皆さまには今回意見をいただいたが、パブリックコメントの段階でもご意見をいただきたいと考えている。その後2月に最後の懇話会を開催したいと考えている。</p>
座長	<p>ご意見があればメール、FAX、電話等で事務局まで連絡してほしい。次回の懇話会では、計画素案を基に計画案を作るにあたって意見を皆さまからいただく予定である。次回懇話会はしばらく先になるが、お気づきの点があれば、適宜事務局まで問い合わせしてほしい。</p>

	<p><b>3 第4回 目黒区みどりの基本計画懇話会の日程について</b></p> <p>協議の結果、次回懇話会は2月4日（木）18時30分から20時30分までの開催となった。</p> <p><b>4 閉会</b></p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--